



## 待ってました! ~10月の読み聞かせ、お世話になりました~

20日(木)は、月に1回の読み聞かせの日。今回お世話になったのは、すべて保護者の方々と、低学年は、富野亜貴子様、中学年は西岡雅代様、高学年は松野和宏様です。低学年には、富野様が「Boo Who?」「Skeleton hiccups」、中学年には、西岡様が「おねしょのかみさま」「いいからいいから」、高学年には、松野様が「すてきな三にんぐみ」「かにのしょうばい」というタイトルの絵本を読んでもいただきました。読み聞かせていただいた後に、「子どもが小さいときに好きだった本」の話題で盛り上がったのですが、それぞれのご家庭にもありませんか?我が家では「しろくまちゃんのほっとけーき」が一番活躍した本でした。どの家庭にも、子どもも大人も記憶の中でずっと生き続ける大切な物語があるのかもしれませんが、ぜひ、まずは、気軽に見学いらしてください。そして、読み聞かせの仲間になっていただけたらうれしいです。

(左から低  
の富野様、中  
の西岡様、高  
の松野様です。  
たいへんお世  
話になりました)



# 前途洋々

## アートインアシビナさんによる演劇「ねこはしる」を鑑賞

9月15日(木)に、3・4年生は公演の一部となる動きをつくるためにワークショップを行いました。17日(月)はいよいよ本番の日。朝早くからアートインアシビナさんにおいでいただき、午前中リハーサルを行いました。このコロナ禍で、校外の人たちとの交流が激減したため、伸び伸び表現することのすばらしさを感じてもらいたいということで実現した今回の劇鑑賞でしたが、劇団の方が、「元気でノリがとてもよい!」と褒めてくださった3・4年生の頑張りもあり、とても素敵な会となりました。とにかく、想像して、楽しんでほしいという気持ちでした。シナリオのメッセージには、「命って何?命はどこから来てどこに行くの?本当の友だちって、何?劇はたくさんの大切なことを感じたり考えたり、発見したりする楽しくて、不思議な時間です。たくさんの不思議、たくさんの発見を、お友だちといっしょに楽しんでね!」とありました。まさにそんな時間になったと思います。野原の様子や色や音で綴られ、子供たちそれぞれの物語の世界が頭の中で展開されたと思います。そして、命のはかなさを感じた子供も多かったと思います。言葉にはできないけれど、悲しい、せつない、そして少し苦しいようなそんな感情を抱いたのではないのでしょうか・・・。

写真はリハーサルの様子です。伸び伸び表現する子供たちに「すごい!」という思いで一杯になりました。保護者の方々にもお出でいただき、ありがとうございました。ご覧にいただけなかった保護者の方々も、ぜひ子供たちに様子をお尋ねになってください。また、このような機会が持てたらいいなと思っているところです。



## 10月の「ふるさとくまさんデー」はお隣の上益城から!

10月の「ふるさとくまさんデー」は、上益城からのメニュー「文楽めし、牛乳、いちょう葉汁、いわしのかんろ煮、水前寺菜のサラダ」をいただきました。御存知のとおり、上益城はきれいな水に恵まれ、米や高冷地野菜、お茶などが有名です。山都町には、清和文楽がありますが、文楽を観劇するときに、地元で採れる山菜や豆などで混ぜご飯や煮染めを作り、お弁当にしたそうです。この混ぜご飯のことを文楽飯と言うそうです。いちょう葉汁は、その名のとおり人参や大根、里芋をいちょうの葉に、炊いた大豆や枝豆を銀杏に見立てて作られたもの。御船町では、きれいな水を使って水前寺菜が栽培されており、今回はサラダでいただきました。水前寺菜は、300年ほど前に中国から伝わった、熊本の伝統野菜です。ちょうど17日は、アートインアシビナさんが本校で演劇の公演をされた日。給食を召し上がっていただきました。とても喜んでいただきました!今月もとてもおいしかったです!ごちそうさまでした!

